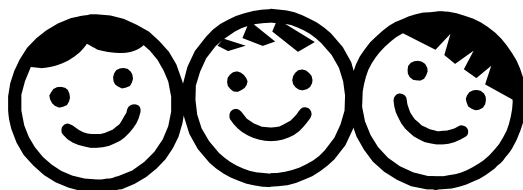


高 校 生 の 男 女 共 同 参 画 と
男 女 間 の 暴 力 に 関 す る
ア ン ケ ー ト 調 査 結 果 に つ い て



平成 2 7 年 1 2 月

鹿角市市民部市民共動課

調査の概要

1. 調査目的

男女共同参画社会の実現に向けて、男女共同参画について考えるきっかけづくりや人権教育の推進などを図り、男女がそれぞれを認め合い、思いやる関係の構築と格差・差別、暴力のない社会を目指すため、潜在化しがちなDVについての認識を浸透させていきたいと考えています。

本調査では、高校生における男女共同参画と異性に対する暴力の意識に関する実態の把握を行うことで、今後の若年層に向けた男女共同参画事業の参考とし、男女共同参画施策に役立てていくことを目的としています。

2. 調査対象

鹿角市内の公立高校(花輪高校、十和田高校)に在籍する高校2年生を対象としました。

3. 調査方法

鹿角市内の協力校に対して、調査表の配布・回収を行いました。

クラス担任を通じて生徒に調査票を配付してもらい、調査票の記入後、回収用封筒に入れ回収を行いました。

4. 調査期間

平成27年7月13日（月）から7月17日（金）まで

5. 調査内容

- ・男女共同参画について
- ・デートDVについて
- ・暴力に対する考え方について

6. 調査結果

調査票送付数	246
調査票回収数	241
回 収 率	97.9%

7. アンケート集計結果の公表について

本調査の集計結果は、各校に配布するほか、市ホームページ上で公開します。また、鹿角市男女共同参画推進会議に報告するとともに、必要に応じて市民に周知し、若年層に向けた男女共同参画施策の企画立案の基礎資料といたします。

その際、学校名の記載は行わず、統計的に取り扱うこととします。

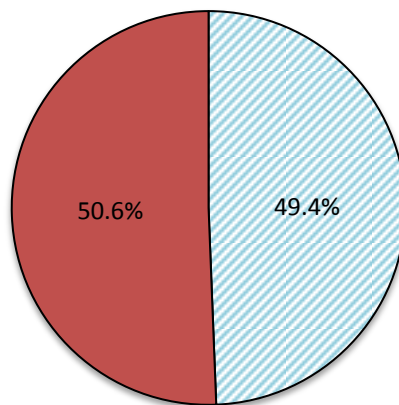
※調査結果の割合は、小数点以下第2位を四捨五入しており、一部合計がずれる場合があります。

回答者の男女比

回答者数：241人

男性：49.4%（119人）

女性：50.6%（122人）

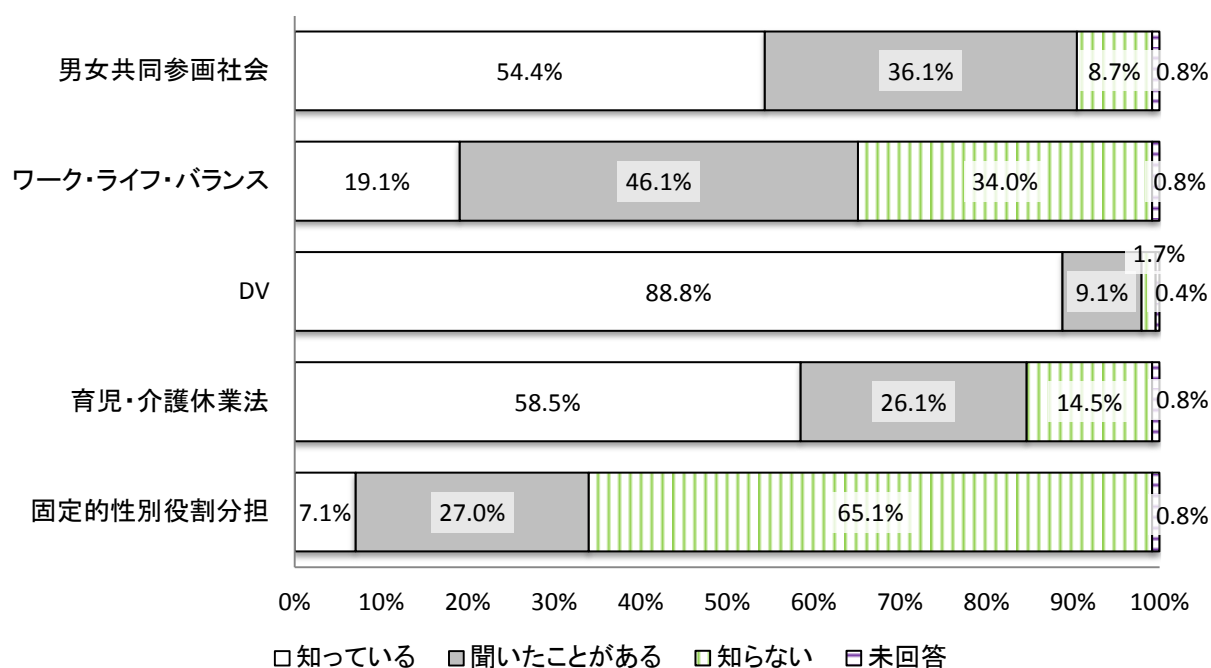


□ 男性 ■ 女性

調査の結果

1. 男女共同参画に関する用語の認知度

設問 次のような用語について、知っている、または聞いたことがありますか。

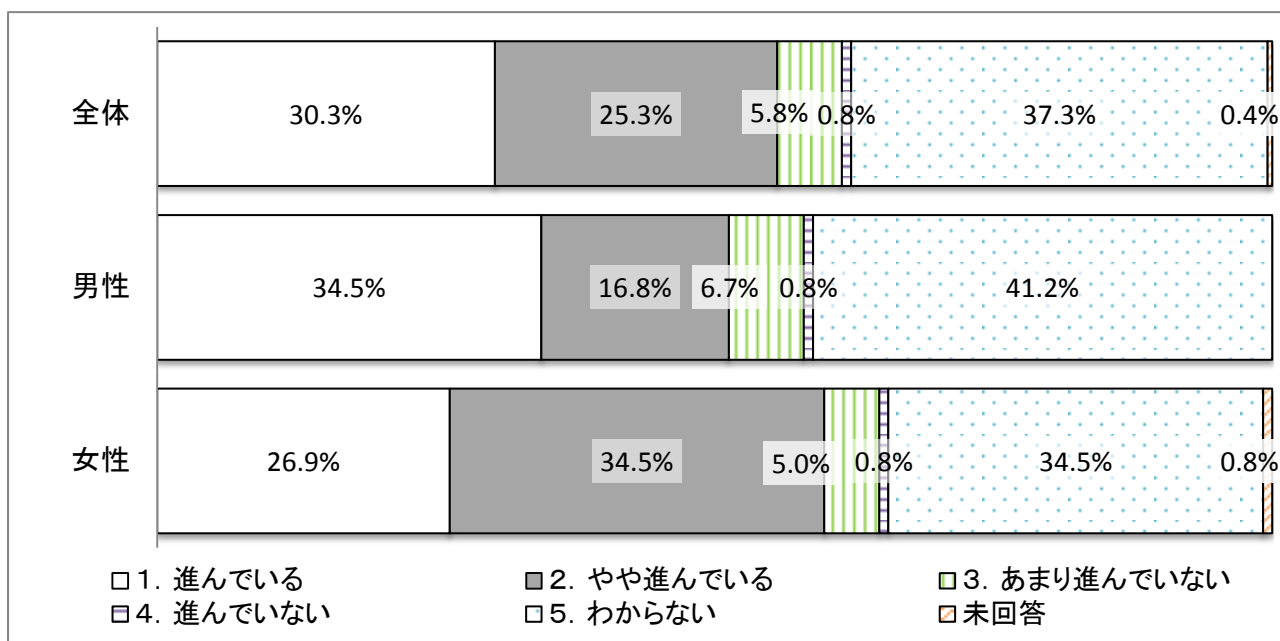


男女共同参画に関する用語の認知度については、「DV（ドメスティックバイオレンス）」が最も認知度が高く、88.8%が「知っている」と回答しました。また、「男女共同参画社会」と「育児・介護休業法」を「知っている」と回答したのは約60%ですが、「聞いたことがある」を含めると80%以上になり、ほとんどの高校生が認知していることが分かりました。

一方、「ワーク・ライフ・バランス」や「固定的性別役割分担」といった用語は、認知度が低い結果になりました。

2. 学校における男女共同参画

設問 学校において男女共同参画は進んでいると思いますか。

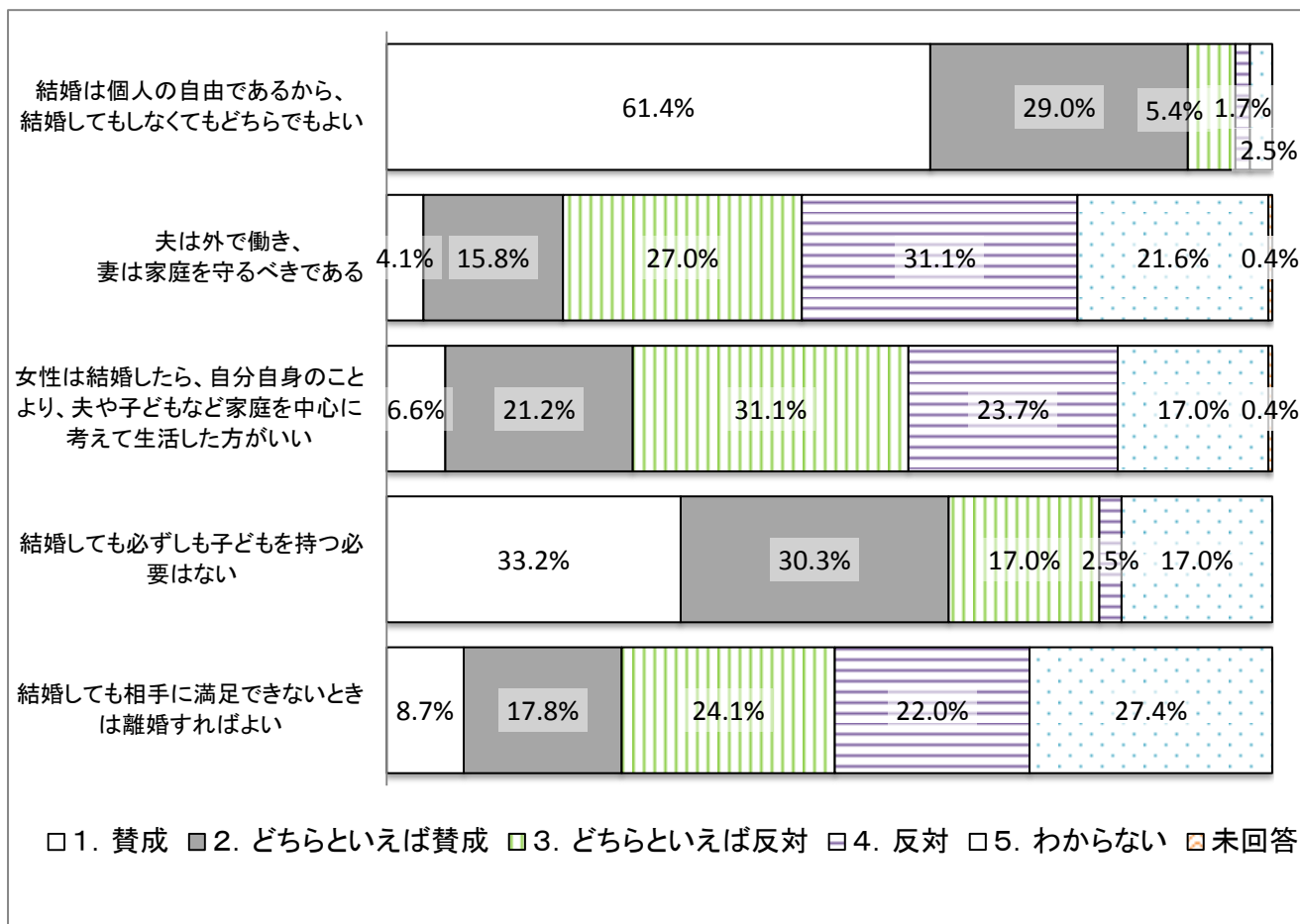


学校において男女共同参画が進んでいると思うかについては、全体では30.3%が「進んでいる」、25.3%が「やや進んでいる」と回答しました。「あまり進んでいない」「進んでいない」が少ない一方で、37.3%が「わからない」と回答していることから、男女共同参画が進んでいるかについて、具体的にイメージできていない人も多いことが分かりました。

3. 結婚、家庭、離婚に対する考え方

設問 結婚、家庭、離婚について、あなたの意見を教えてください。(〇はそれぞれに1つ)

《全 体》

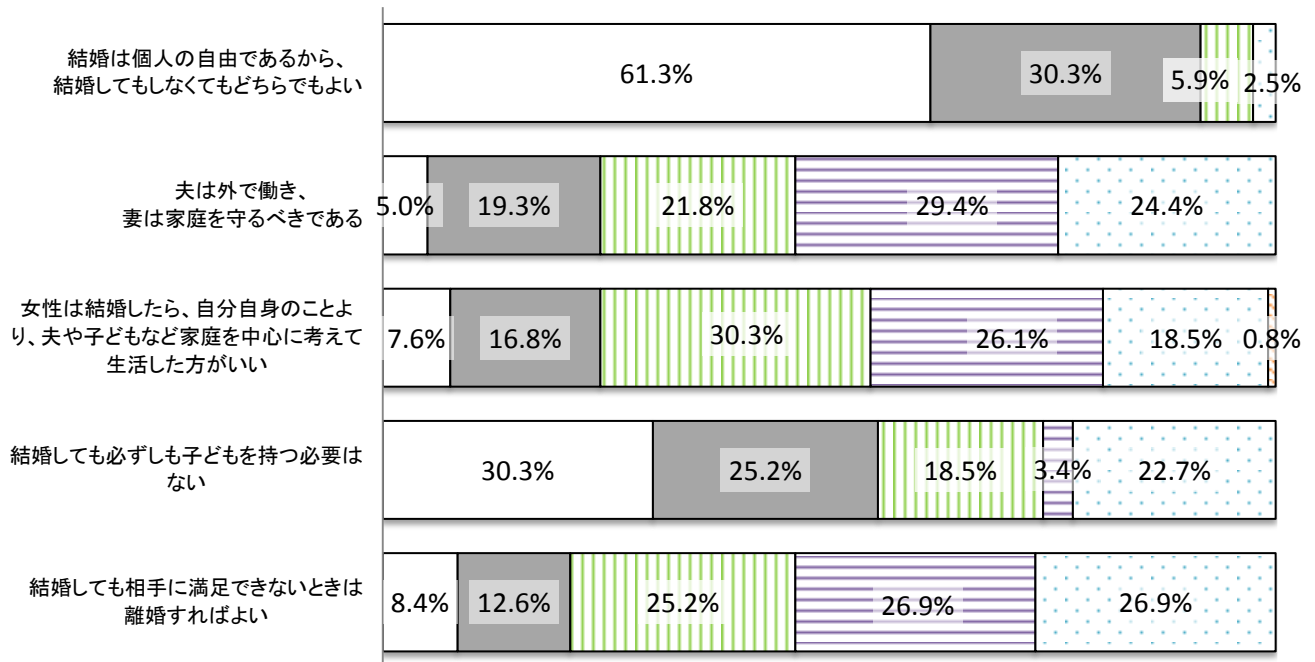


「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」や、「結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」という考えに対しては、肯定意見（「賛成」「どちらといえば賛成」）が多く、「夫は外で働き、妻と家庭を守るべきである」や「女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家庭を中心に考えて生活した方がいい」、「結婚しても相手に満足できない時は離婚すればよい」といった考え方に対しては、否定意見（「どちらといえば反対」「反対」）が多い結果となりました。

また、全体的に「わからない」と回答する割合が高く、結婚や家庭、離婚についての現実感が希薄であることが考えられます。

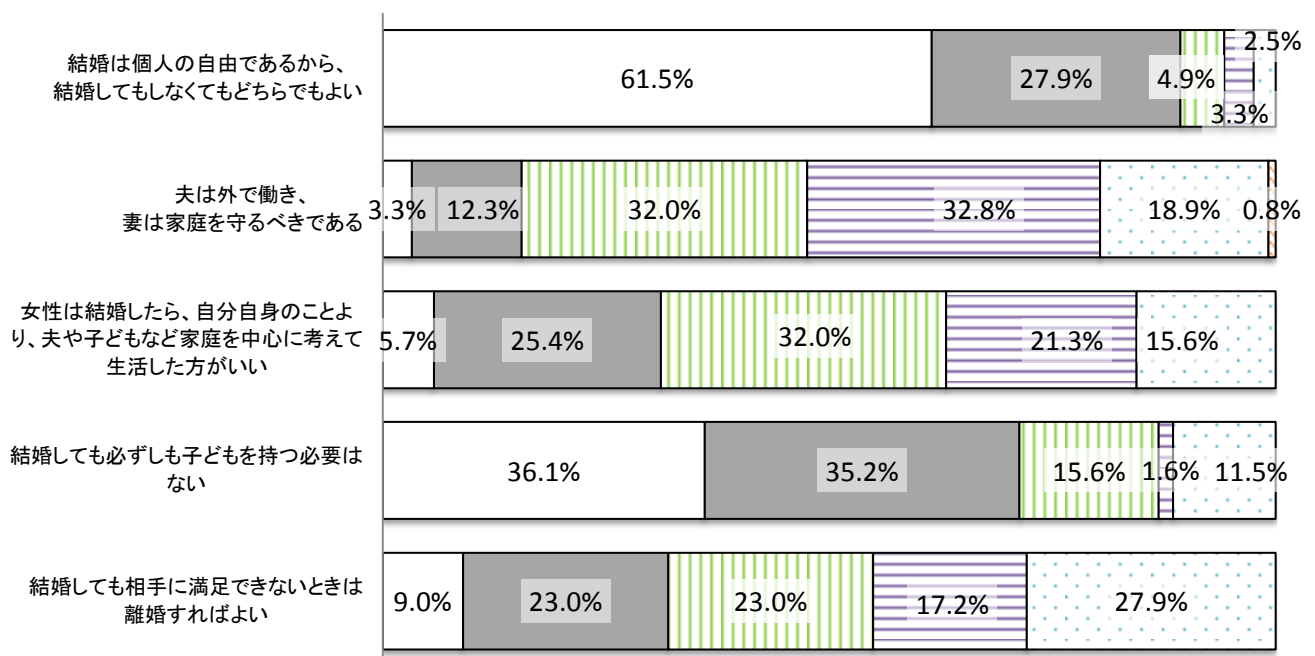
《性 別》

(男性)



□ 1. 賛成 □ 2. どちらといえば賛成 □ 3. どちらといえば反対 □ 4. 反対 □ 5. わからない □ 未回答

(女性)



□ 1. 賛成 □ 2. どちらといえば賛成 □ 3. どちらといえば反対 □ 4. 反対 □ 5. わからない □ 未回答

「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」という考えについては、男女ともにほぼ同じ結果になりました。どちらも肯定意見が多く、結婚については性別に関わらず、個人の自由であると考えている人が多いことが分かります。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考えについては、肯定意見の割合は女性より男性の方が8.7ポイント上回ったものの、男女ともに否定意見が過半数を占めました。

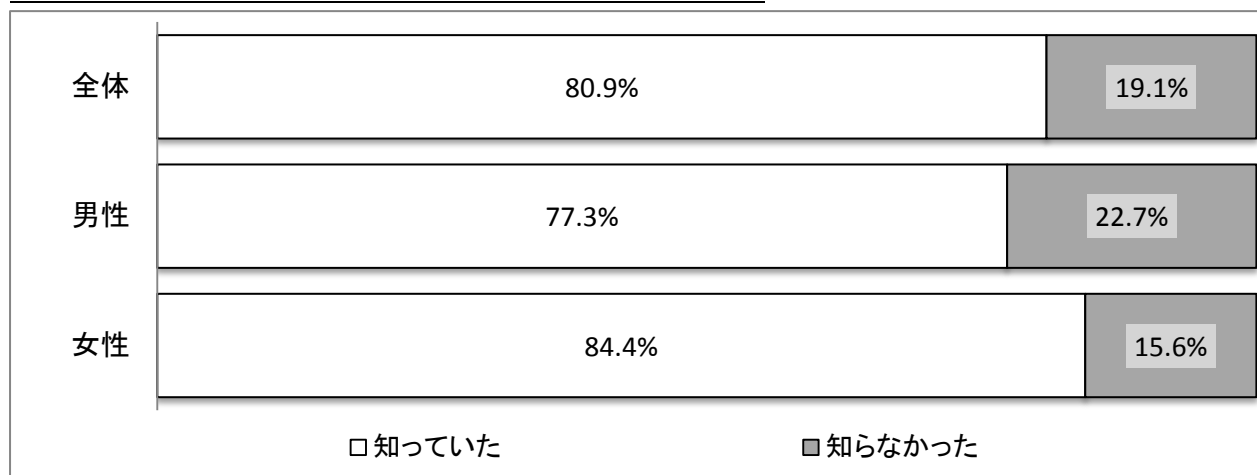
「女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家庭を中心に考えて生活した方がよい」という考えについては、男女ともにほとんど同じ割合でしたが、女性の方が男性よりも肯定意見の割合が6.7ポイント高い結果になりました。

「結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」という考えについては、男性の55.5%が肯定意見であるのに対して、女性は71.3%と男性を15.8ポイント上回り、女性の方が、結婚後に必ずしも子どもを持つ必要はないと考えている人が多いことが分かりました。

「結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい」という考えについては、女性の方が男性よりも11ポイント肯定意見が多く、否定意見は男性が女性を11.9ポイント上回りました。また、男女共に約3割が「分からない」と回答していました。

4. デートDVについて

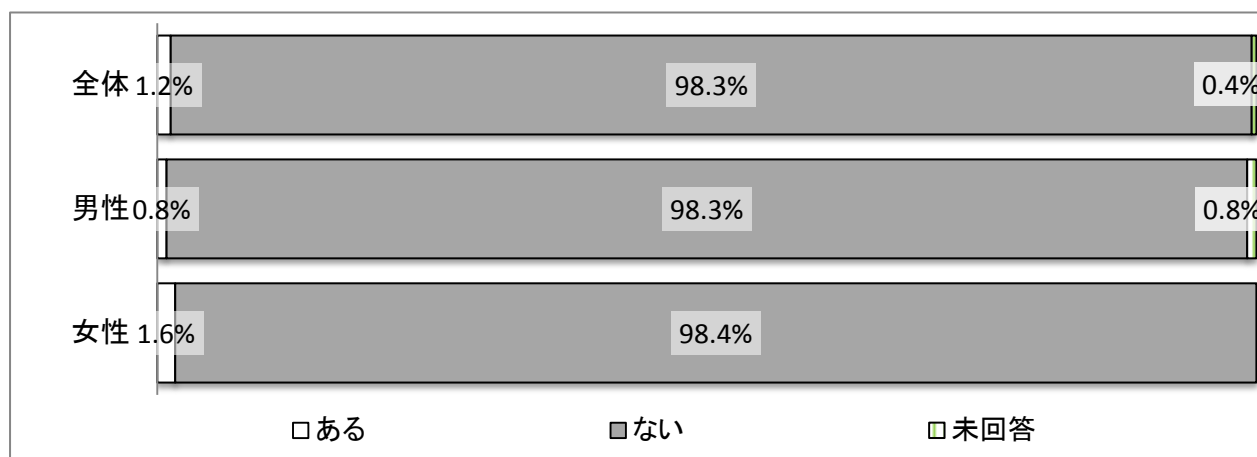
設問 あなたは、デートDVという言葉を知っていますか。(〇は1つ)



「デートDV」の認知度については、全体で80.9%と、ほとんどの人が「デートDV」という言葉を知っていることが分かりました。男女別でみると7.1ポイントと若干ではありますが女性の方が男性よりもデートDVという言葉を知っている人が多い結果でした。

全体的に認知度が高い理由として、学校でDVに関する授業や講習会を定期的の実施し、DVやデートDVについて生徒が学ぶ機会が確保されている効果が表れているものだと考えられます。

設問 あなたは、これまでに交際相手からデートDVと思われる行為を受けたことがありますか。(〇は1つ)



デートDVを受けたことがあるかについては、ほとんどの人が「受けたことがない」と回答したものの、1.2%と少数ではありますが「受けたことがある」という人もいました。

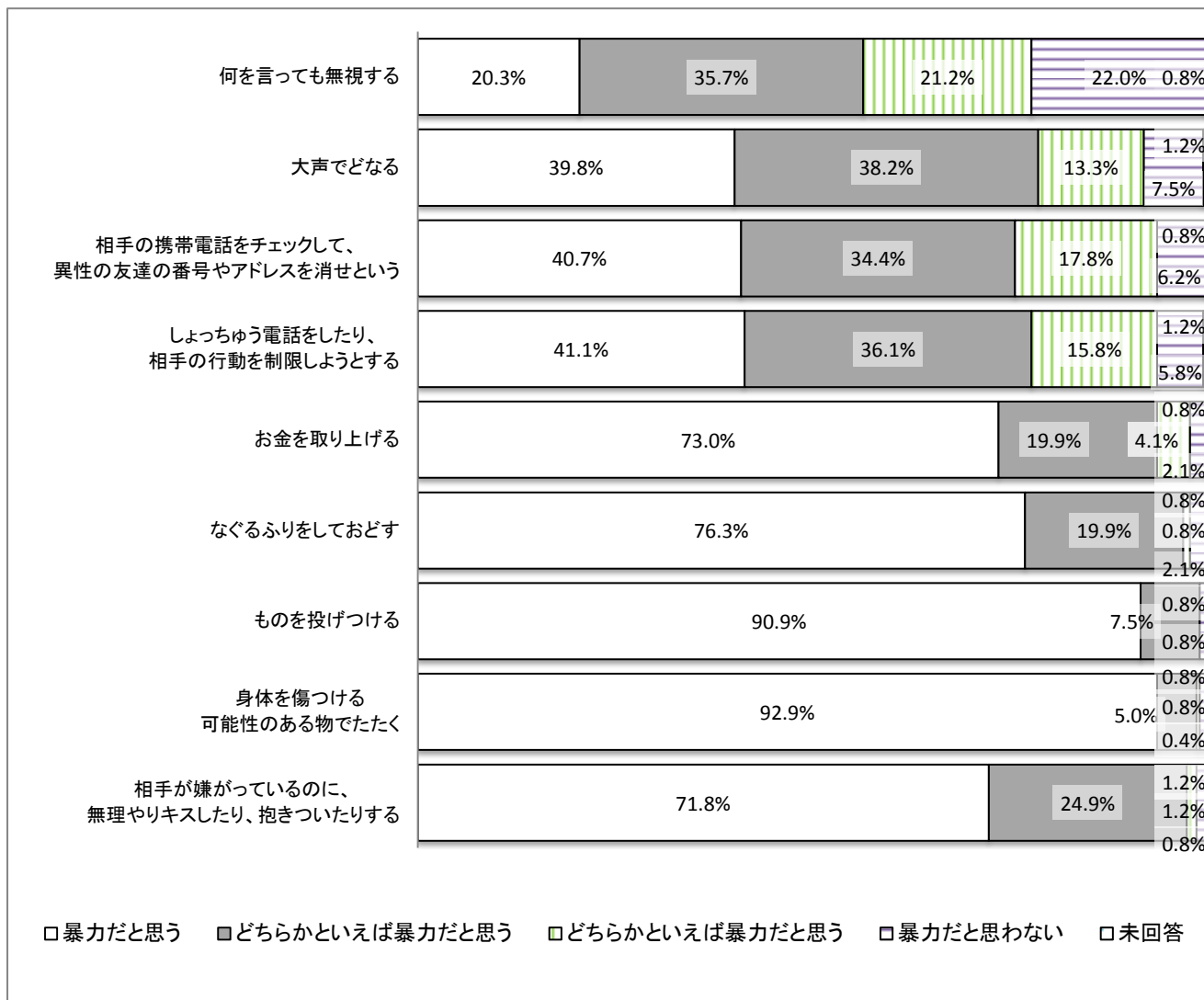
DVの被害者が、いつでも気軽に相談できる環境の整備や、解決のための対策を準備しておく他、DV防止のための施策を徹底する必要があります。

5. 暴力に対する意識について

設問 あなたは、夫婦や恋人同士で起こる次のようなことを暴力だと思いますか。

(○はそれぞれに1つ)

《全 体》

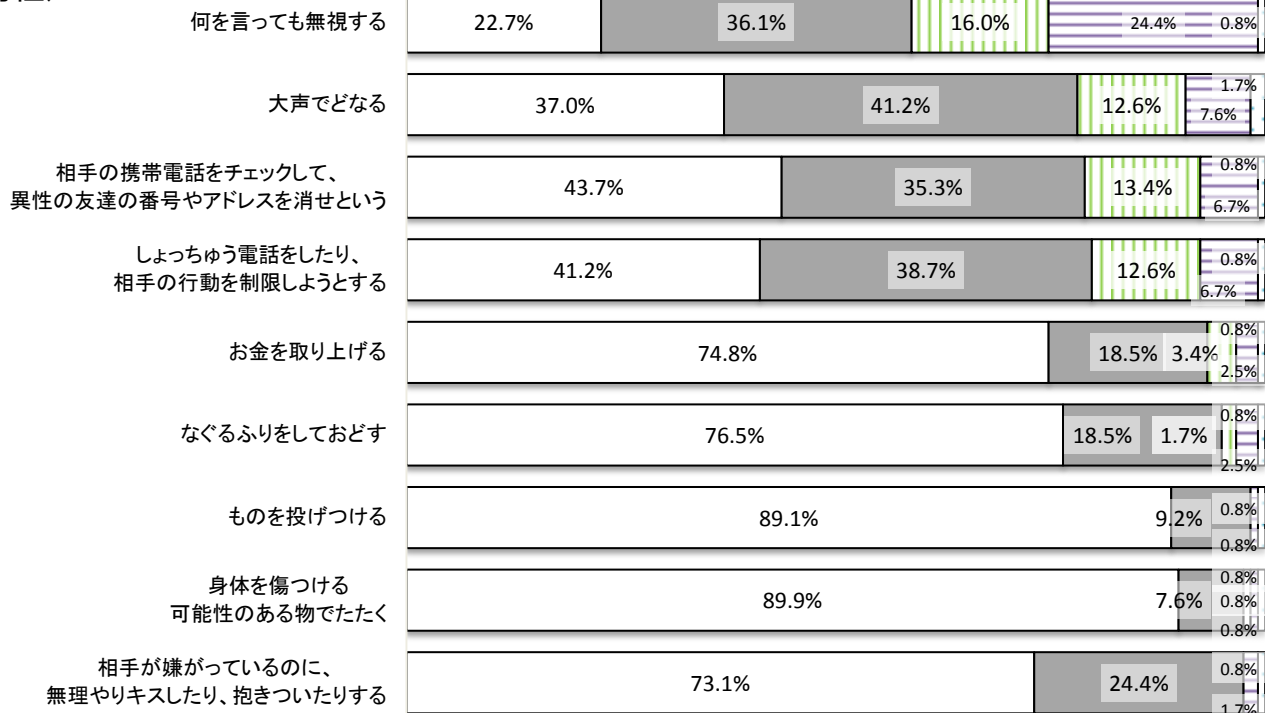


DVに該当する行為を暴力だと認識しているかについては、「ものを投げつける」、「身体を傷つける可能性のある物でたたく」、「相手が嫌がっているのに無理やりキスしたり、抱きついたりする」といった身体的な暴力や、「お金を取り上げる」、「なぐるふりをしておどす」といった行為に対しては、高い割合で「暴力だと思う」と回答しています。

一方で「何を言っても無視する」、「大声でどなる」、「相手の携帯電話をチェックして、異性の友達の番号やアドレスを消せという」、「しょっちゅう電話をしたり、相手の行動を制限しようとする」という行為については、「暴力だと思う」とする回答がそれぞれ約20～40%と低く、精神的な暴力は暴力であると認識されにくいと言えます。

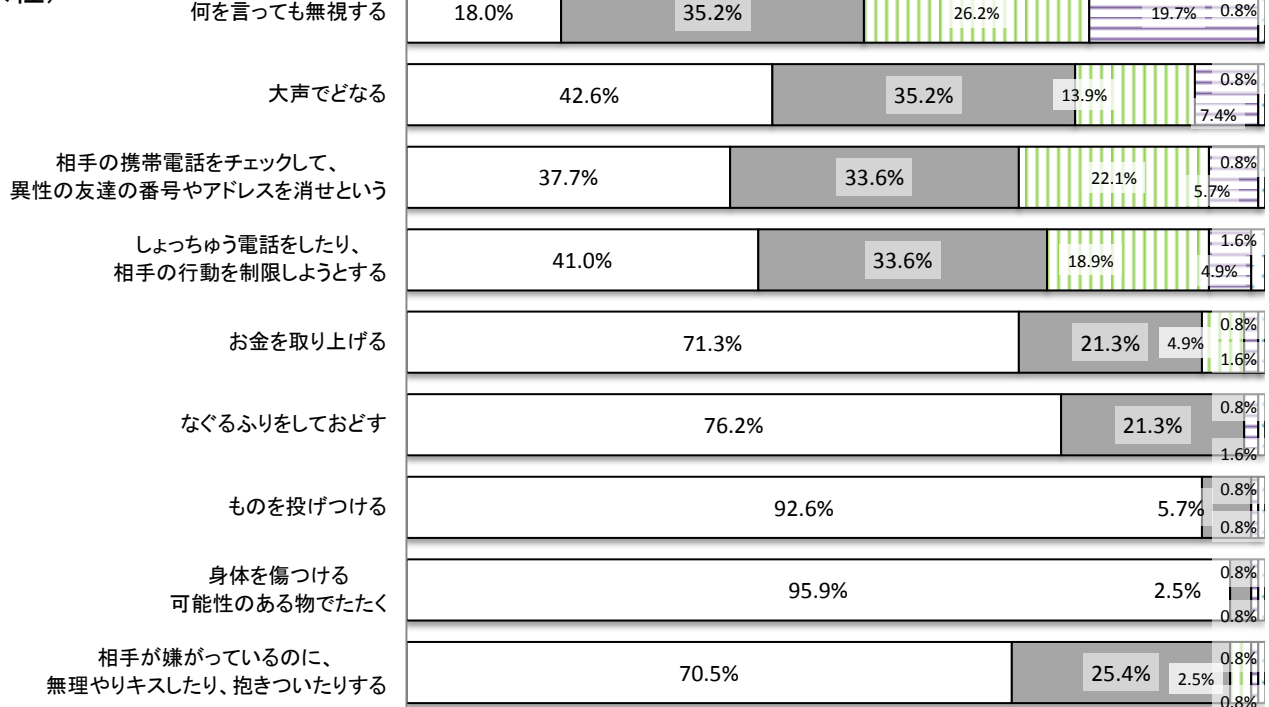
《性 別》

(男性)



☐ 暴力だと思う
 ☐ どちらかといえば暴力だと思う
 ☐ どちらかといえば暴力だと思う
 ☐ 暴力だと思わない
 ☐ 未回答

(女性)



☐ 暴力だと思う
 ☐ どちらかといえば暴力だと思う
 ☐ どちらかといえば暴力だと思う
 ☐ 暴力だと思わない
 ☐ 未回答

「何を言っても無視する」という行為について、「暴力だと思う」とする男性の割合は女性よりも4.7ポイント高く、否定意見は女性の方が5.5ポイント高い結果となりました。

「大声でどなる」という行為について、「暴力だと思う」と回答した人の割合は男性よりも女性の方が5.6ポイント高いという結果でしたが、暴力だと認識している人の割合（「思う」「どちらかといえば思う」）は男女ともほぼ同じ割合となりました。

「相手の携帯電話をチェックして、異性の友達の番号やアドレスを消せと言う」という行為について、暴力だと認識している人の割合は男性の方が女性よりも7.7ポイント高く、「どちらかと言えば思わない」と回答した人の割合は女性の方が男性よりも8.7ポイント高い結果でした。

「しょっちゅう電話をしたり、相手の行動を制限しようとする」という行為について、「暴力だと思う」人の割合と「暴力だと思わない」人の割合は男女ともほぼ同じでしたが、「どちらかといえば思う」は男性の方が5.1ポイント高く、「どちらかと言えば思わない」は女性の方が6.3ポイント高い結果でした。

「お金を取り上げる」という行為と「なぐるふりをしておどす」という行為について、男女ともほとんど同じ割合で、ほとんどの人が暴力と認識していることが分かりました。

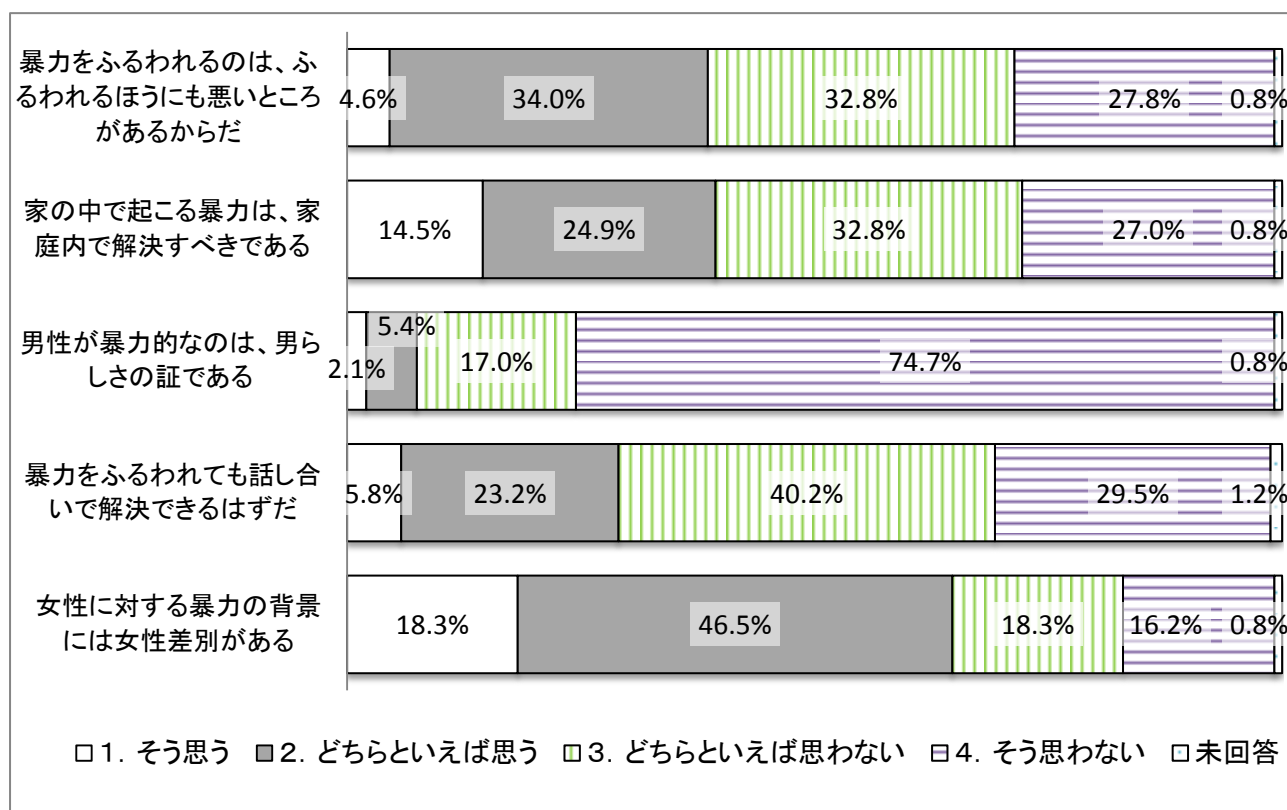
「ものを投げつける」という行為と「身体を傷つける可能性のある物でたたく」という行為について、どちらも男女とも約90%が「暴力だと思う」と回答し、「どちらかといえば思う」を合わせるとほとんどの人が暴力だと認識していることが分かりました。

「相手が嫌がっているのに、無理やりキスしたり、抱きついたりする」という行為について、男女とも暴力だと認識している人の割合が90%を超え、ほとんどの人が暴力だと認識していることが分かりました。

設問 次の考え方について、あなたの考え方に一番近いものに○をつけてください。

(○はそれぞれに1つ)

《全 体》

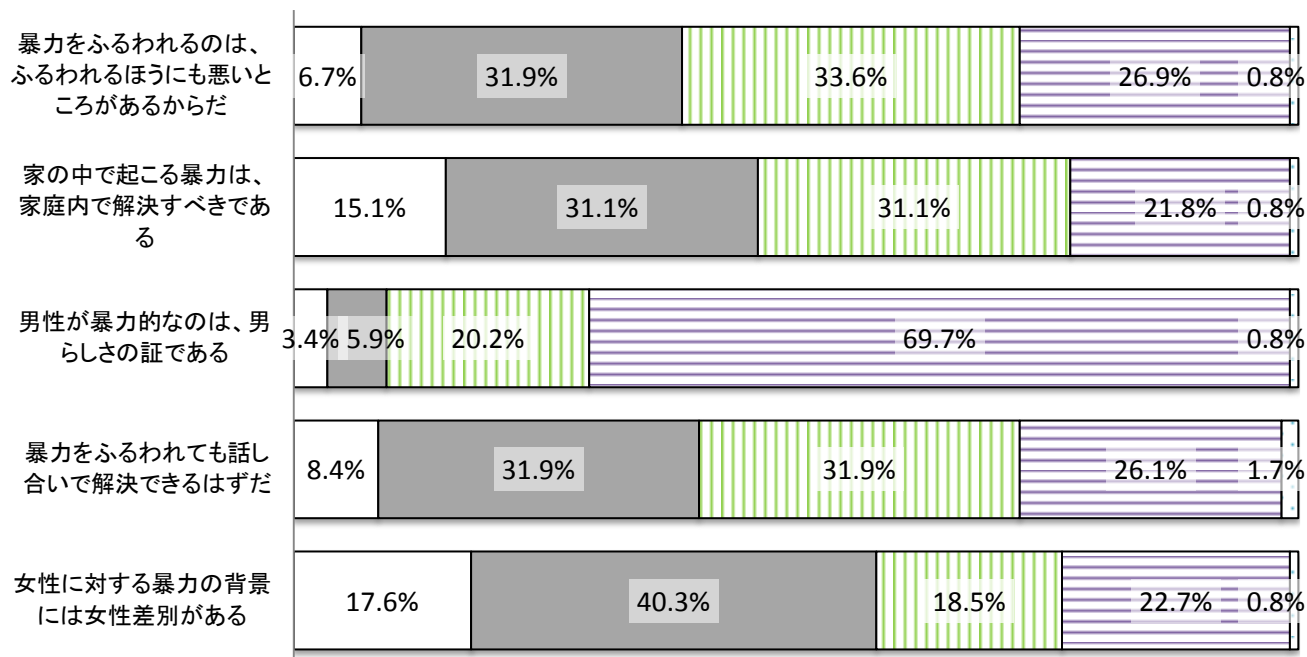


暴力に対する考え方について、全体でみると、「暴力をふるわれるのは、ふるわれるほうにも悪いところがあるからだ」、「家の中で起こる暴力は、家庭内で解決すべきである」、「男性が暴力的なのは、男らしさの証である」、「暴力をふるわれても話し合いで解決できるはずだ」という考え方については、否定意見（「どちらといえば思わない」「そう思わない」）が過半数を占めました。中でも「男性が暴力的なのは、男らしさの証である」については否定意見が91.7%となりました。

また、「女性に対する暴力の背景には女性差別がある」については64.5%が肯定意見（「そう思う」「どちらといえば思う」）で、過半数を占めました。

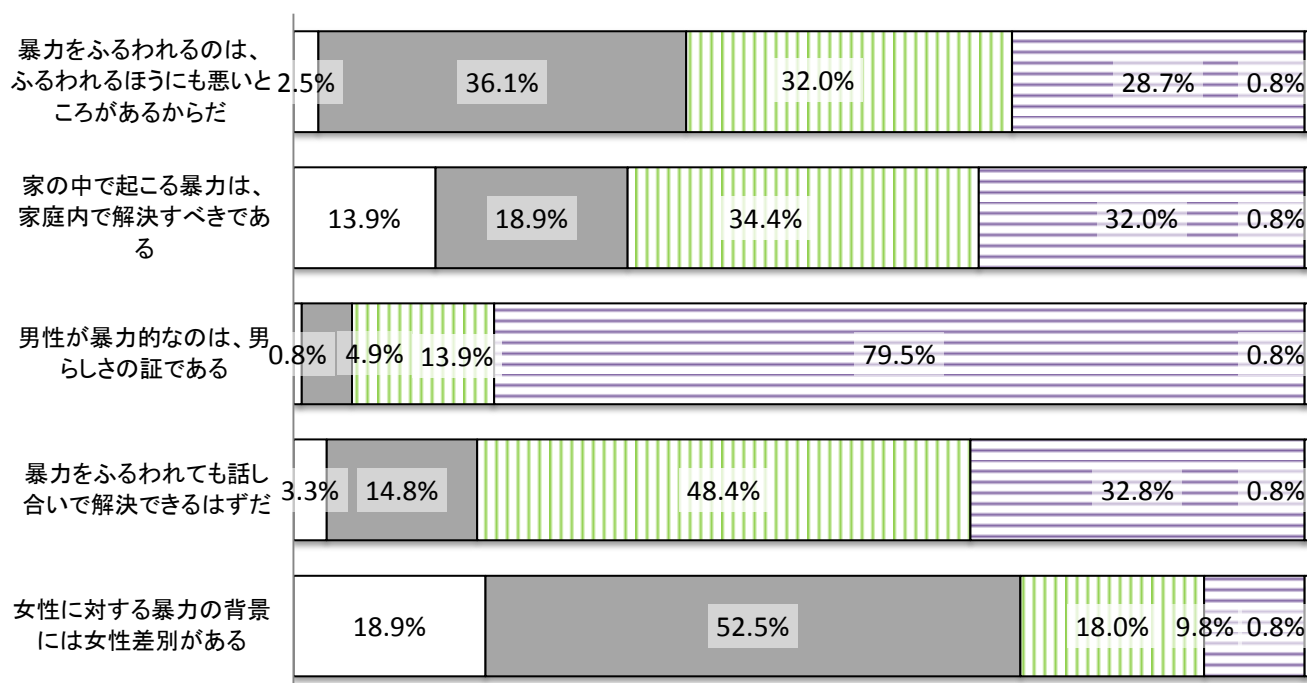
《性 別》

(男性)



□ 1. そう思う □ 2. どちらといえば思う □ 3. どちらといえば思わない □ 4. そう思わない □ 未回答

(女性)



□ 1. そう思う □ 2. どちらといえば思う □ 3. どちらといえば思わない □ 4. そう思わない □ 未回答

「暴力をふるわれるのは、ふるわれるほうにも悪いところがあるからだ」という考え方について、男女ともほとんど同じ割合で、どちらも否定意見が過半数を占めました。

「家の中で起こる暴力は、家庭内で解決すべきである」という考え方について、「どちらとさえ思いう」と回答した人の割合は男性の方が女性よりも12.2ポイント高く、「そう思わない」と回答した人の割合は女性の方が男性よりも10.2ポイント高いという結果でした。

「男性が暴力的なのは、男らしさの証である」という考え方について、男性も女性も「そう思わない」と回答した人の割合が多く、特に女性は79.5%と男性よりも8.8ポイント高い結果でした。

「暴力をふるわれても話し合いで解決できるはずだ」という考え方について、男性は女性に比べて肯定意見が多いのに対し、女性は男性に比べて否定意見が多いという結果でしたが、男女共に否定意見が肯定意見を上回っています。

「女性に対する暴力の背景には女性差別がある」という考え方について、「そう思わない」と回答した人の割合は男性が22.7%と女性の9.8%よりも12.9ポイント高く、「どちらとさえ思いう」と回答した人の割合は女性の方が52.5%と男性の40.3%よりも12.2ポイント高い結果でした。

6. 性別に関わらず、生きやすい社会にするために必要なこと

設問 あなたは、「女性にとっても男性にとっても生きやすい社会」にするためにはどのようなことが必要だと思いますか(自由回答)

男女平等な社会づくり

- ・「男だから」「女だから」と言わず、一人の人間として全員が考えるようになれば男女共に生きやすい社会になると思う
- ・「女性」「男性」で区別するのではなく、「人間」という大きなくりにして考えた方がいいと思う。
- ・女性、男性、あまり考えすぎない様にすればいいと思う。
- ・女性だから、男性だから、といった考えをなくすべきだと思う。性別の問題でどうしてもできないことはしょうがない
- ・女性だから、男性だからと決めつけないこと
- ・女性と男性が平等に生活する
- ・男女の役割の壁を減らす
- ・男性だけの何か、女性だけの何かみたいなものを無くせばいいと思う
- ・「女子だから」とか「男子だから」という固定された思いをなくす事が必要だと思う

- ・会社とかでも女だからできるだろとか、男ならできるだろとかの差別をしない
- ・差別がなく、平等な社会
- ・男女の扱いを同じにする。平等にする
- ・男女の差別をしない
- ・男性、女性の差別がなく固定概念（例夫は働く、婦は家事をする）をなくす事が必要と思う
- ・男性と女性の地位の高さを平等にしていけることが必要だと思います
- ・どちらかが強いとかどちらがえらいなどをつくらずに生活することが必要
- ・平等な社会づくり
- ・暴力などがなく、女性男性どちらも気の使えることが必要だと思います
- ・暴力や差別をなくす必要がある
- ・両性一方の負担が重くならないようにすること。どちらか一方だけが優先されないようにする事
- ・差別をなくす、勝手な思い込みで女性はこうあるべきだとか男性はこうあるべきだという固定観念を捨てる
- ・女性が社会進出してきている今、女性の権利も男性と同等であるべきだと思う。DV やしつく相手につきまとったりするのはダメだ
- ・男性、女性の差別がなく固定概念（例夫は働く、婦は家事をする）をなくす事が必要と思う
- ・男性と女性の地位の高さを平等にしていけることが必要だと思います
- ・どちらかが強いとかどちらがえらいなどをつくらずに生活することが必要
- ・暴力などがなく、女性男性どちらも気の使えることが必要だと思います
- ・両性一方の負担が重くならないようにすること。どちらか一方だけが優先されないようにする事

男女がお互いを理解し尊重し合う

- ・相手の立場になって考えてみる
- ・異性どうしが場合によっては遠慮し合うこと
- ・異性を尊重する
- ・お互いが異性について理解する。気配りをする
- ・お互いに限度があることや、心情などを理解する
- ・お互いにささえあい、何か嫌なことがあったらなしあうなど
- ・お互いに尊重しあう。男女の格差をなくす
- ・それぞれが互いのことを知っておいた方がいいと思う
- ・それぞれの性が異性のことをしっかり考えて、理解していくことが必要
- ・互いの事情や感情を分かり合う。そしてそれに適した行動をする
- ・男女それぞれ、個人的な価値観を相手に押しつけないことが必要だと思う。考え方が違うのはあたり前なのだから、自分と異なった意見にも耳を傾けるようにすると思う。多勢が賛成する意見が必ずしも正しいとは限らないから、少数意見も聞き入れるようにする
- ・1人1人が相手の立場を尊重すること。平等にあることが重要だと思う
- ・私は女性と男性が互いを尊重しあうことが大切だと思いました。一方が一方のみを気づかうのではなく、お互いの性格や性別、そしてなにより心を尊重するようにすれば男女ともに生きやすい社会になるのでは？と思いました

その他

- ・「女性にとっても男性にとっても生きやすい社会をつくりたい」と唱える政治家が活発に政治活動を行うべきである
- ・DV を少しでも広めて被害者を減らしてほしい
- ・DV を法律できびしくとりしめる
- ・いやむしろ今は女子の方がつよい
- ・男は手を出さない
- ・温厚になる
- ・学校の授業などで小さい頃から男女平等を教える
- ・考え方をリセットしなくちゃいけない。歴史も差別的なものは消さなきゃいけない
- ・結婚しないでぼっちで生きましょう
- ・結婚を義務化する
- ・自分達が生きやすい社会とは、「お互い幸せを第一に考える社会」のことだと思っています。交際にせよ、結婚にせよ、また、社会のことにせよ、自分も相手もそれが幸せだと確信できるのなら、男女間での暴力やデート DV も起こらずに済むだろうと思っています
- ・自分の意志をもつこと
- ・社会的な支援が必要
- ・常識にとらわれない発想が必要
- ・女性の総理大臣を作る
- ・女性ももっと自分から社会に出て行けばいいと思う。パワハラ、セクハラ、エイハラをなくせばもっとより良い社会になると思います
- ・性差をなくすために学校で教育すればよいと思う
- ・全員が平和主義
- ・それぞれの男女間で幸せだと思っていればそれでいいと思うから、そういった社会を目指すには当たり前の人間としての成長が必要だと思う
- ・互いの意見をだしあう
- ・暴力に関する法律をつくる。もっと相談しやすい環境をつくる
- ・無理。そんな社会が作りたくないなら、全ての人が人間関係のリセットをし、一からやりなおすひつようがある